

Title	機能横断チームの有効性 - 日米企業の分析 -
Sub Title	
Author	山脇美佐(Yamawaki, Misa) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1218号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1218

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

山脇 美佐

主査 矢作 恒雄

副査 関本 昌秀

奥村 昭博

所属

矢作 恒雄 研究室

機能横断チームの有効性

—日米企業の分析—

目 的

近年元気を取り戻している米国企業では、組織の各部門を横断する形で作られたチームによる活動が増加している。また、この成果が伝えられると、日本企業でも組織機能を横断するチームが導入され、その成果が報告されている。

以上から、これらの機能横断チームの活動が企業の競争力の源泉となるのではないかという問題意識のもと、機能横断チームの有効性についての考察を深めることを本研究の目的とした。

調査プロセス

機能横断チームの有効性として「創造性」「スピード」「実行力」「やる気」「情報力」について8つの評価項目、有効性に影響を与える要素として「コントロール」「コミュニケーション」「電子メール」「リーダー」「メンバー」に関する項目を設けて、アンケート調査票を作成し、電気機器の分野に属する日米企業の製品開発チームのリーダーを対象に調査を行った。

主要な調査結果

合計51サンプルの回収後、t検定を行った結果、機能横断チームの有効性が99%の信頼性で有意となった。さらに重回帰分析の結果、機能横断チームの有効性の中でも「スピード」には企業が外的に設定できる要素（システム）がより大きく寄与し、「創造性」「やる気」といった部分にはリーダーの資質とともにチームの運営の中で後天的に生じるメンバー間の関係が大きく寄与することが統計的に確認された。